

社会思想史

科目責任者 竹内高明
学年・学期 1学年・1学期

I. 前 文

戦争と革命の世紀と言われた20世紀、激動する世界の中でよりよい社会の実現を求め、苦悩しながらも鮮やかな生の軌跡を残していった人々がいた。この授業では、彼らを主人公とした優れた映画を視聴し、彼らの生き方と言葉に触れ、21世紀に生きる私たちの在り方を再考し、未来に向けての自らの指針を検討する。

II. 担当教員

竹内高明（基本医学）

III. 一般学習目標

日本と世界の現代史の中で起こった諸事象とそこに表れた問題、それらと個人の生き方の相関を考え、人権の尊重と民主主義社会の実現に向けて努力した人々の遺産を検討する。

IV. 学修の到達目標

過去の歴史と世界の現況が人々と国のふるまいにどのように関わるかを理解し、社会と世界の変化の中で自らの指針を保持し、自立した判断と行動ができる。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1：反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。）
2：ディスカッション、ディベート 3：グループワーク 4：実習、フィールドワーク 5：プレゼンテーション
6：その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブラーニング
1	4	30	水	5	『映画 日本国憲法』：今この国と私たちはどこにいるのか	竹内高明	1, 2
2	5	7	水	5	『金子文子と朴烈』：私は私自身を生きる	竹内高明	1, 2
3		14	水	5	『ハンナ・アーレント』：全体主義の加害者と被害者	竹内高明	1, 2
4		21	水	5	『ゆきゆきて、神軍』：「十五年戦争」と戦争責任	竹内高明	1, 2
5		28	水	5	『わが街わが青春 石川さゆり水俣熱唱』：高度経済成長と環境破壊	竹内高明	1, 2
6	6	4	水	5	『ミルク』：政治の場面に出た性的少数者	竹内高明	1, 2
7		11	水	5	『マルコムX』：人種を超えた平等の追求へ	竹内高明	1, 2

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

事前課題の発表（30%）、出席や授業に対する取り組み（10%）、期末レポート（60%）をあわせて総合的に評価する。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

教科書は特に指示せず、事前学習動画で講義内容を説明し、授業時に資料を配布する。また、必要に応じて参考図書を指示し、授業中に視聴覚資料を用いる。

VIII. 質問への対応方法

授業中・授業後に随時受け付けるほか、語学・人文教育部門室でも対応可。

部門室での質問の場合は、あらかじめ連絡を取る可。

竹内連絡先：t-take@dokkyomed.ac.jp

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	○
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題については授業中、全体及び個別にフィードバックを行う。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

各回の授業前に予習動画を視聴し、事前課題を準備する（20分）。事後学習として、授業での学びを整理し以降の学習に活かす（20分）。

XII. コアカリ記号・番号

PR-03-01-01, GE-04-02-01, SO-06-01-03